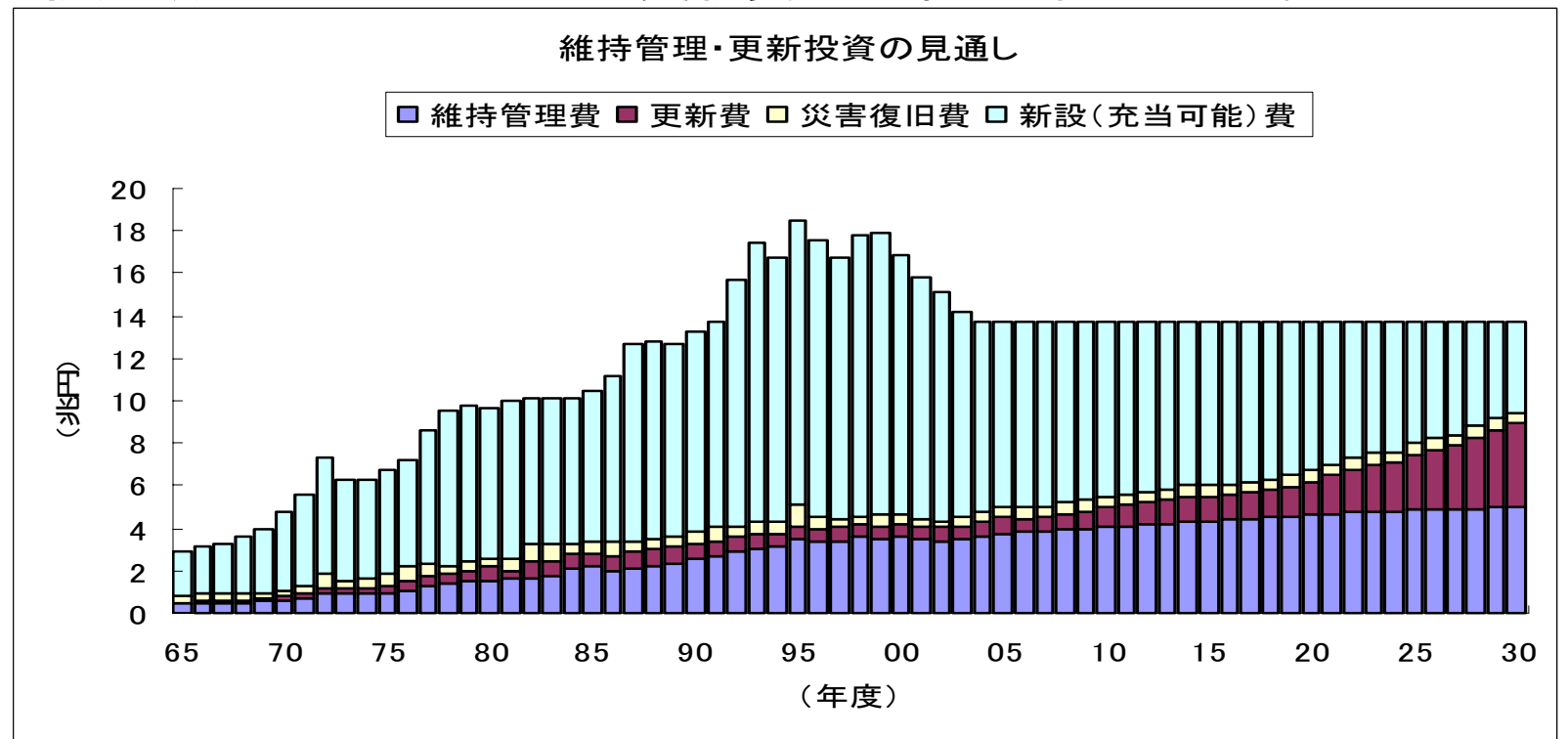


現状・課題

- ・老朽化による 障害の顕在化



- ・投資額に占める維持管理・更新費用の増大(推計による見込み)



※社会資本の耐用年数の経過時に施設を更新することを前提とし、仮に投資可能総額が今後横ばいとした場合の試算

今後の取り組みの方向性

○計画的な維持管理・更新の実施

- ・施設全体の状態を点検・評価しながら、予防的修繕により、施設を長寿命化するなどライフサイクルコスト(生涯費用)が最小となるよう計画的な補修を実施

○コスト縮減に関する工夫の一層の進展

- ・地域における日常管理の効率化(例:道路照明の部分的な消灯、清掃回数の低減 等)
- ・地域住民やボランティア団体等との連携による管理の実施 等

○維持管理・更新の高度化のための技術開発の推進

- ・点検・検査技術の高度化、評価手法の確立
- ・更なるコスト縮減につながる工法の開発 等

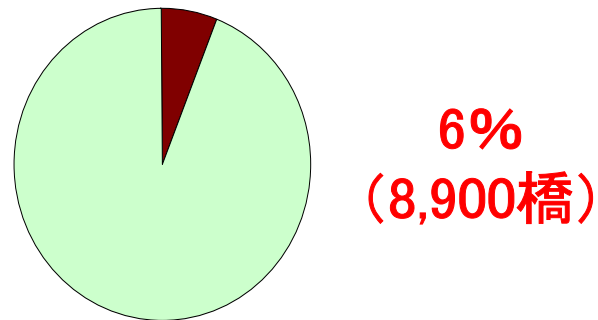
事例：地方公共団体の道路橋に関する長寿命化修繕計画の取組

○今後、老朽化する道路橋が急速に増大。橋梁の長寿命化及び橋梁の修繕・架替えに係る費用の縮減を図ることが重要。
 ○従来の事後的な修繕及び架替えから、予防的な修繕及び計画的な架替えへと円滑な政策転換を図るため、長寿命化修繕計画を策定する地方公共団体に対して、国が支援(当該計画策定に要する費用の1/2を国が補助)。

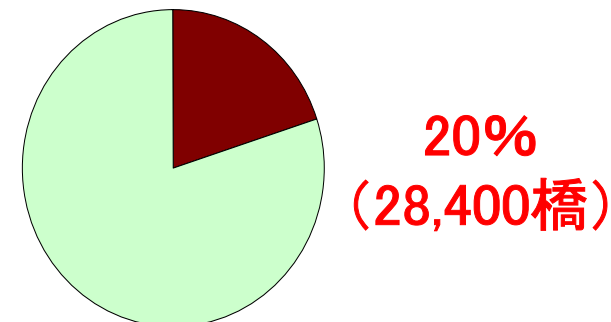
①背景

一般道路における橋梁※のうち、建設後50年以上のものは、今後20年間で47%に増加。

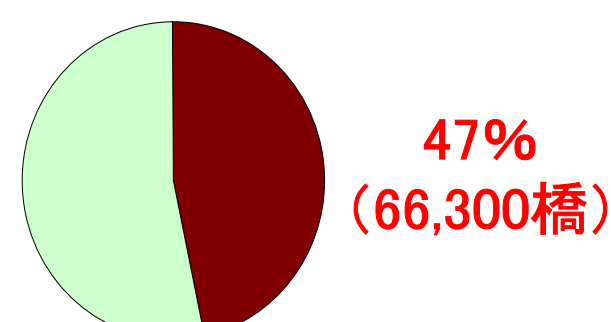
【2006年度】



【2016年度】

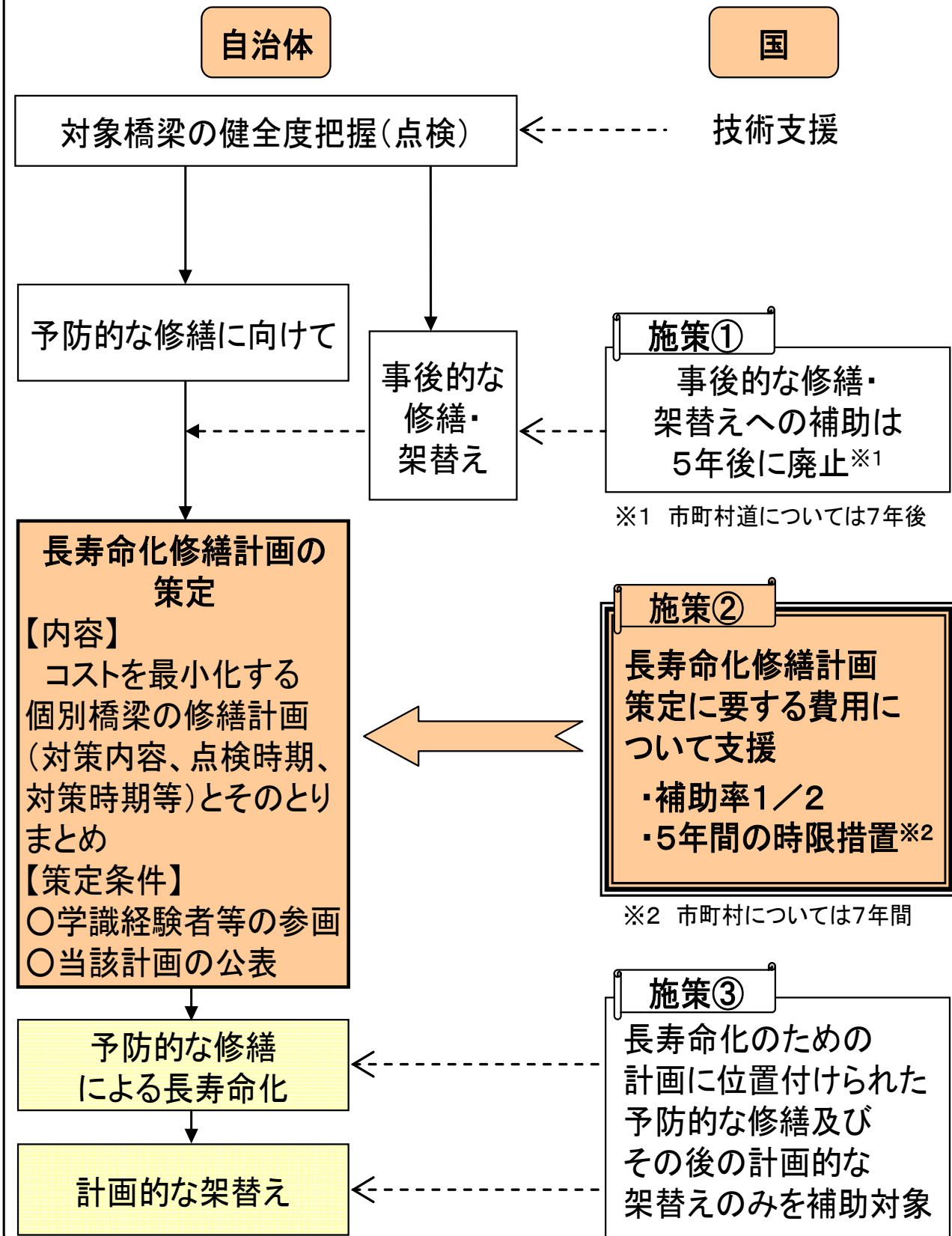


【2026年度】



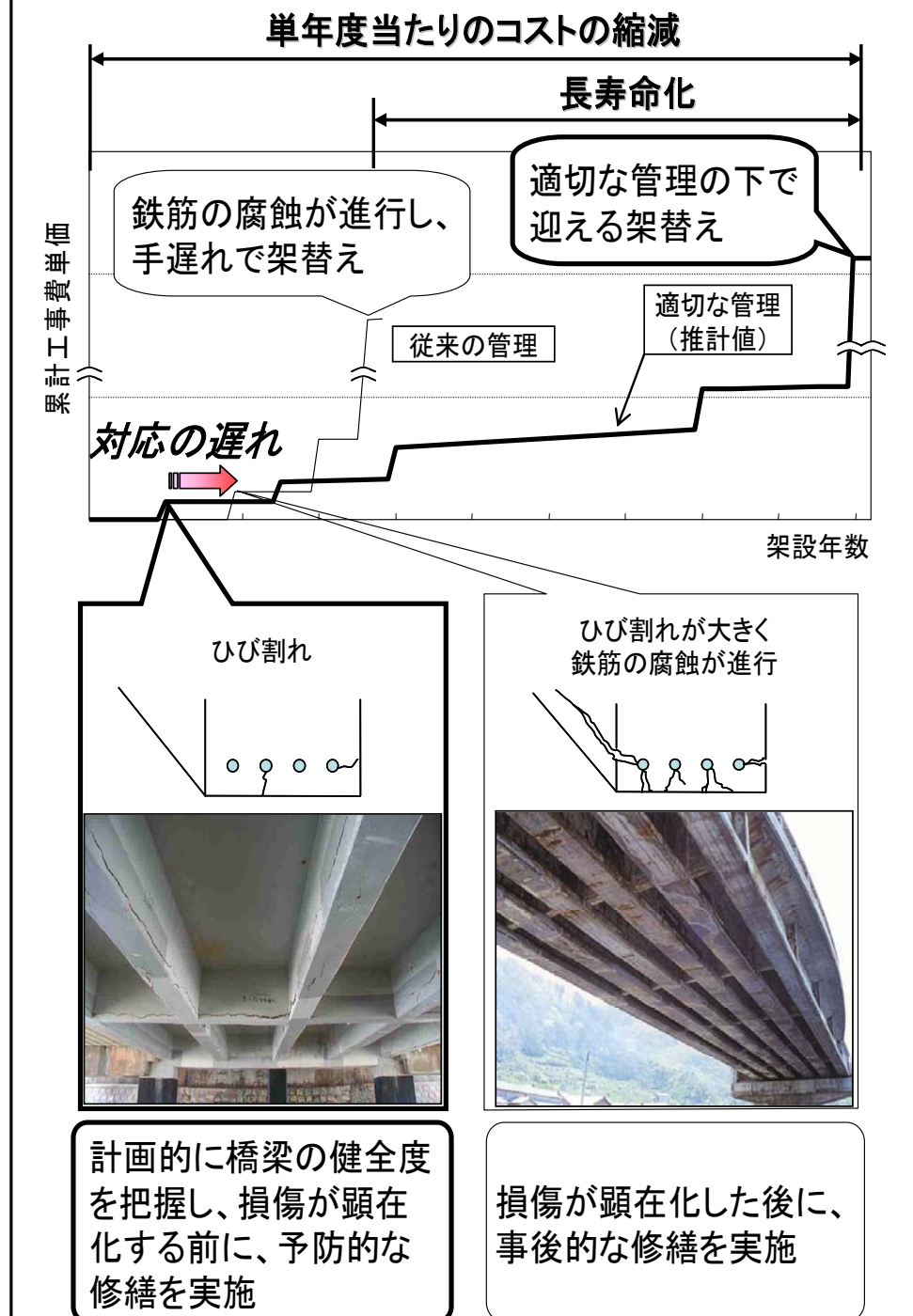
※全橋梁数は約14万橋

②制度概要



③本制度による効果

橋梁を長寿命化することにより、建設年から架替え年までの修繕・架替えに係る単年度当たりのコストを縮減



事例：河川管理施設における劣化度診断に基づくきめ細かな修繕・更新の実施

従前の対応

部材単位での更新を基本

- ・例えば、河川用ゲート設備のゲート開閉に不具合が生じた場合は、ギヤ自体を更新して健全度を維持
- ・個々の部材の健全度が、劣化によりどの程度低下するかを診断する技術的手法・知見が乏しかったため、部材単位での更新を基本としつつ施設の信頼度を担保



劣化したゲート開閉装置のギヤ



- ・部材の劣化度合いの計測・判定・評価技術の進歩
- ・過去の技術的知見の蓄積
- ・補修技術の高度化

今後の対応

劣化度診断を導入し、よりきめ細かく効率的な修繕・更新が可能に

- ・各部材について緻密な劣化度診断を行い、健全度が維持できるような局所的な修繕が可能であれば、部材全体の更新ではなく修繕を実施
- ・例えば、河川用ゲート設備のギヤについてきめ細やかな修繕を行った場合、全体を更新する場合と比較し、数分の1のコストで済む試算。

実施事例： ギヤの修繕 2百万円/台
ギヤの更新 8百万円/台

